

神戸市立博物館 特別展
蒐集家・池長孟の南蛮美術—言葉から紡ぐ創作

2025年4月26日(土)～6月15日(日)

※会期中、一部の作品は展示替えがございます。



神戸市立博物館
学芸員 中山 創太



重要文化財 かのうないぜん 狩野内膳 南蛮屏風(右隻)
桃山時代、16世紀末～17世紀初期

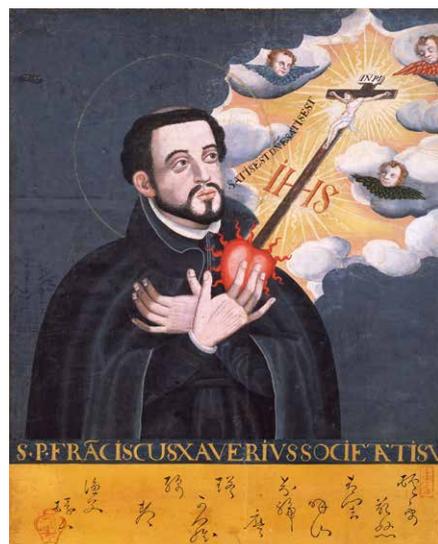
神戸出身の蒐集家・池長孟。この名前を聞いて、「神戸市立博物館の…」と、連想される方は、博物館や美術館に頻繁に通われている方や美術史に関

心を持っている方もかもしれません。そもそも、「何と読むのかわからない」「何をした人」と聞かれることも多く、わたしたち学芸員の活動が至らないことを実感する瞬間でもあります。

改めまして、この池長孟(1891～1955)は、南蛮美術なんばんびじゆつといわれる、諸外国の影響を受けて日本でつくられた美術品を蒐集しました。教科書でお馴染みの重要文化財「聖フランシスコ・ザビエル像」、狩野内膳「南蛮屏風」なども蒐集品の一つです。これらは、現在、神戸市立博物館に受け継がれ、同館のコレクションの顔といえる存在となっています。

池長は、生涯をかけて蒐集した南蛮美術コレクションの価値を広く共有すべく、昭和15(1940)年に神戸の熊内くもちに自費で池長美術館(現在の神戸市文書館)を開館。第二次世界大戦が激化していく昭和19年まで、毎年4～5月の2カ月間、自身が設定したテーマのもと、全5回の展覧を行いました。第2～4回の出品目録のてに遺る「この宝物は既に皆様のものなので、充分その価値を認識して、皆様のお力によって、愛護して下さいますようお願い申し上げます」という池長の言葉。芸術文化を敬い、それを一般の人々にも広く伝えようとする純粋なまでの姿勢に驚かされます。この池長の思いは、自著や日記、友人との手紙などの関連資料からもうかがえるのです。

本展では、池長孟ぼつこ歿後70年の節目の年に、当館が所蔵する池長孟関係資料を中心に、南蛮美術の名品を一堂に展覧します。池長が遺してくれた言葉をたどりながら、その活動を検証するとともに、世界に誇る南蛮美術コレクションが神戸に伝わる意義に触れる機会になれば幸いです。



重要文化財
聖フランシスコ・ザビエル像
江戸時代、17世紀

※掲載作品はいずれも神戸市立博物館蔵(池長孟コレクション) 通期展示

※この特別展は、みなと銀行文化振興財団が助成しています。